



# 教育・イン・ザ・ワールド

## —基礎・基本の充実と個性尊重の教育を求めて—

国際化にふさわしい教育の話題をシリーズで紹介する「教育・イン・ザ・ワールド」。今回は、文部省教員海外派遣団（第22回）の一員としてスウェーデン、ベルギー、アメリカの教育文化施設等を視察なされた小田省悟先生（船引高校）からのリポートです。

スウェーデンでは、小・中学校にあたる基礎学校の後、16のプログラムから自分に適しているコースを選択して学習する総合高校を見学しました。技術・職業系コースでは、即実践の専門的な力を養う実習主体の教育が、贅沢とも思われる施設・設備の中で展開されていました。ただ、不況や失業の傾向が強まる中、それらの専門職に就けない「出口」の問題や、難民受け入れに伴う他民族理解のため、従来以上に宗教教育に配慮しなければならないなど、国家事情が教育現場に大きく影を落としているようでした。

ベルギーにおいては、小学校終了時点で生徒の能力・適性を判断し、その後のコースを定めるといった、欧洲ならではの能力主義が強く感じられ、生徒は理論系と技術系にはっきり分けられます。かつてのギルド社会にみられた「職業人」養成の伝統的な気風から、このようなシステムがさして抗抵なく成り立つかもしれません、進路決定



〈ベルギー：セントルーカス学校〉  
ASO（進学）コースのクラス。同行の英語教師の話を聞く生徒たち。



〈スウェーデン：ゲルギンスカ校〉  
美容師コースの実習教室。

については、もう少し「モラトリアム」的な期間があってもいいのでは、などと日本のものさしで考えてしまいました。

州によって教育制度もやや異なるそうですが、訪れたアメリカ、ケンタッキー州の学校のシステムは、ほぼ日本と同様で、馴染みやすいものに感じられました。最近、他州にさきがけて取り組んだ教育改革の一つは、これまでの「講義」式の授業から、生徒が興味をもって主体的に「考える」授業への転換であり、また、中産以下の家庭の生徒にも手をゆき届かせる教育、とのこと。教室のしきりをとりはらったオープン教室等、斬新なアイディアがみられる一方、メンタルな「ソフト」面に改めて取り組んでいることがうかがわれました。



〈アメリカ：ベリア・コミュニティ高校〉  
放射状型のオープン教室。

主 観 察 国 ・ 学 校	スウェーデン (エーレブルー)	トゥールレンゲ校、メリリング校、 ゲルギンスカ校、カロリンスカ校、 リースバーグスカ校
	ベルギー (オーステンデ)	ヴリイテクニッシュ校、オース テンデ第2中高等学校、スティミオ 校、ステーデリック水産学校、セ ントルーカス校
	アメリカ (リッチモンド)	マジソンセントラル高校、マジソ ンザザン高校、ベリア・コミュニ ティ高校